

TONAMI ART MUSEUM

# 砺波市美術館

秋冬の常設展示のご案内

平成29年10月17日(火)～12月25日(月)

《11月13日(月)は施設点検のため休館します》

開館時間 午前10時～午後6時

観覧料 一般210円[160円] 小中高100円[80円]

[ ]内は20名以上の団体料金、65歳以上の割引料金

## 常設展示室1 工芸の秀作 (館蔵品展)

当館が収蔵する漆芸、陶芸、人形、木工芸などの優れた作品を紹介。

新敷孝弘《乾漆苜蓿 野辺》1994



井口十糸《野の精》2013

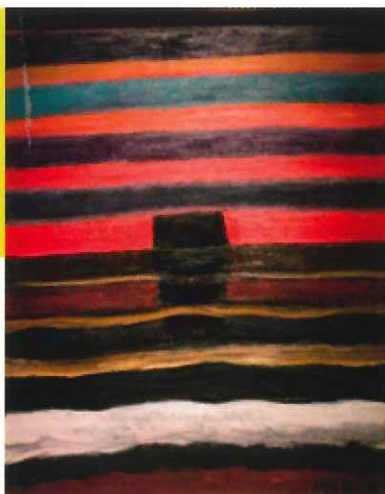
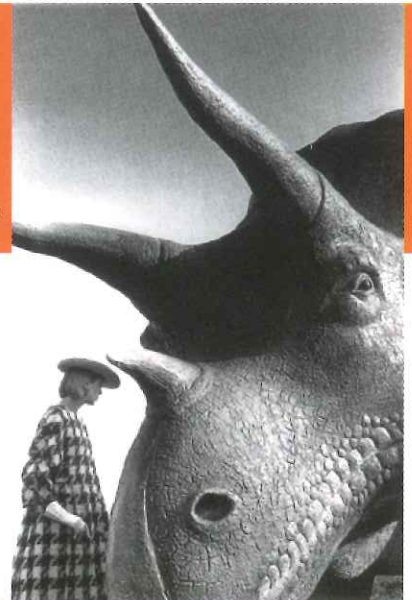
## 常設展示室2 ジャンル・シーフ (写真)

ジャンル・シーフ《ハーバース・バザー、ニューヨーク》1963  
©Jeanloup Sieff

当館収蔵の世界の写真の中からジャンル・シーフの1960年代の作品を紹介。

### ◆ジャンル・シーフ(1933-2000)

1933年にパリ生まれる。1954年、スイスの写真学校を卒業し、フリーの報道写真家として出発。1955年、「エル」誌契約写真家。1958年、マグナムに参加してフォト・ジャーナリズムの世界で活躍。1959年ニエプス賞。1961年よりニューヨーク滞り「ハーバース・バザー」などアメリカの雑誌を中心にファッション写真を発表。1966年、帰国し、パリのスタジオを拠点に世界的な活躍を続けた。「エル」誌上でファッション写真を取り始めて以来、独自のスタイルを展開し、「ファッション写真」「モード写真」を従来の枠組みよりさらに芸術性の高いものへと押し上げ、ポートレート、ヌード、風景、ルポルタージュの分野においても活躍を続けたフランス写真界を代表する巨匠の一人である。



川辺外治《黒い太陽(落日)》1980



永原 廣《女性像》1967

## 常設展示室3 川辺外治(洋画)と 永原 廣(彫刻)

長きにわたり砺波野の美術界をけん引してきた二人の作家の創作活動の軌跡を当館の収蔵作品の中から紹介。

### ◆川辺外治(1901-1983)

富山師範学校を卒業後、美術教師として多くの後進作家を育てた。戦時中、近隣に疎開してきた版画家の棟方志功ら多くの美術作家を支援し、戦後は会派を超えた「彩彫会」の結成と運営に尽力した。

### ◆永原 廣(1905-1993)

18歳で上京し新海竹太郎に師事、日本美術学校を卒業後、作家活動を開始。戦後には郷里砺波を拠点に人物をテーマとした塑像、レリーフを制作。富山県彫刻家連盟の設立に尽力した。

都合により展示作品に変更が生じる場合があります。詳しくは、砺波市美術館までお問い合わせください。

〒939-1383 富山県砺波市高道145-1(砺波チューリップ公園内)  
Tel.0763-32-1001 fax0763-32-6361 <http://tonami-art-museum.jp>